

お客さんみんなで、
おっきな家族のよう。
笑顔が笑顔を呼ぶ宿です。



徳島から来たお遍路さんが、「高知に入ると、人がラテン系になる」と。室戸びとはウラオモチが(ほとんど)なく、明るく人を受け入れるからだそう。

3代目の和也夫妻と祖母と母。笑顔が絶えない「常夏(とこなつ)家族」の宿には、お遍路さんにお仕事さん、家族旅行に一人旅、サーファーや外国人とさまざまなお客さんがやってくる。

顔なじみ客が食堂に集まって、酒盛りが始まるのも常のこと。

野菜も魚もお茶さえも、「ビール以外は地のもの」にこだわる。

海洋学部出身でサーファーでもある3代目は、このあたりの海山川の名ガイド。地元の人も知らないようなスポットに案内し、正しい遊び方を教えてくれる。

「食も遊びも、安心安全がいちばん」と、自然のルールや昔からの知恵をていねいに伝えていく。

BGMは、波の音。頭の上には、天の川。秋から冬にかけては、昇りゆく太陽が水面に輝く「だるま朝日」が、ほぼ標準装備だ。

4月に都会から嫁いだ千里の名言、「室戸びとは都会人にはない、生きる力があると思う」

民宿 徳増

左から 徳増竹子・徳増みすず・徳増和也・千里

室戸びと、 進む。